

## 記 事

◎第 11 回理事会（昭.30.3.12）出席者：青木会長、菊池副会長、飯田、最上、上野、篠原の各理事、中川書記長、朝倉、袴箸、堀内の各主任書記、議事：1) 2月中の行事 その他報告、2) 昭和 30 年度事業計画案、3) 昭和 30 年度予算案、4) 関東地区常議員半数改選方法、5) 各誉員推薦候補者、6) 後任理事候補者、7) 常議員会開催日、8) 朝日科学奨励金研究者推薦は会長及び基盤理事に一任、9) 西部支部支部長伊藤剛、同幹事長和里田新平、同常議員山崎徳也、平田茂憲の各氏を推薦承認、10) 柴橋種造君を大正以降土木史委員会、土木会館建設委員会委員に委嘱、11) 会員入退会承認。

◎常議員会（昭.30.3.30）出席者：青木会長、菊池、藤井副会長、五十嵐、川口、神田（代塚）、田原、高野、林、森、山本、竹重の各常議員及び委任状 29 通、草間、丹治、那波、八田各名誉員、田中（北海道）、宮本（東北）、近藤（関西）各支部長、飯田、片平、篠原、星基の各理事、議事：1) 昭和 30 年度事業計画及び予算案承認。

### 本部事業計画案

（行事）4 月 関東地区常議員半数改選、5 月 通常総会、第 11 回年次学術講演会、見学会（西部支部）、8 月 夏季講習会（鋼橋梁示方書およびプレストレストコンクリート指針）、9 月 応用力学連合講演会、橋梁構造工学研究会、10 月 秋のエキスカッション、その他随時講演会映画会を開催のこと。

### （各種委員会）

編集委員会：学会誌、論文集の編集のため毎月 1 回  
学会誌編集小委員会：学会誌各号編集の最終的打合せのため毎月 1 回

学会誌抄録委員会：学会誌抄録欄のため毎月 1 回  
水理委員会：研究、講演会、年報及び論文集の編集  
コンクリート常置委員会：コンクリート技術及び示方書の研究

プレストレストコンクリート委員会：4 月 17 日最終案決定の見込

土木工学叢書委員会：叢書の企画

法規委員会：工務士法研究

製図規格委員会：各部門の基準を研究

海外連絡委員会：国際会議との連絡

橋梁構造委員会：JSC 国内委員会の分科委員会として活動

土木賞委員会：土木賞の詮衡

土木会館建設委員会：土木会館建設企画

大正以降土木史委員会：土木史の編集

土木工学論文抄録委員会：論文抄録第 5 集の編集を終り目下印刷中

海岸工学委員会：近日発足の予定

法面築堤崩壊防止研究委員会

コンクリート構造物委員会

国鉄委託

鋼鉄道橋設計示方書委員会

溶接鋼鉄道橋示方書委員会

### 昭和 30 年度予算案

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 会 費	12 284 000	I. 事 務 費	6 476 000
1) 正,准,学生会費	6 805 000	II. 会 誌 費	280 000
2) 特別員会費	979 000	III. 会 費 金	71 000
3) 過年度収入	800 000	IV. 支 部 交 付 金	905 000
4) 特別賛助費	3 700 000	V. 事 業 費	11 795 000
II. 政府補助金	221 000	VI. 管 理 費	100 000
III. 諸刊行物収入	3 344 000	VII. 積 立 金	210 000
IV. 雑 収 入	4 111 000	VIII. 予 備 費	122 000
合 計	19 959 000		19 959 000

2) 昭和 29 年度事業概要報告、3) 基金及び創立 40 周年記念事業費報告、4) 昭和 29 年度土木賞受賞者報告、5) 土木会館建設経過報告。

### ◎各種委員会

1. 第 10 回編集委員会（昭.30.3.23）出席者：最上、後藤正副委員長、矢野（代村山）関西地方委員、森、大宮、三木、斎藤、山本、西畑、村、吉川、坂本、三上各委員、徳平幹事、中川書記長、岡本編集部員。協議事項：1) 会誌および論文集進捗状況報告、2) 投稿論文および新規受付論文審査委員の決定、3) 土木賞決定について委員長より報告、4) 依頼原稿について、5) 討議依頼先の決定、6) 40 巻 5 号登載論文を次のとおり予定した。

佐藤忠五郎・北村幸治：桂沢ダム寒中コンクリート施工報告、市原松平：地表面荷重重によつて岸壁に作用する横方向土圧の分布について、成岡昌六・米沢博：直交異方性板理論の鋼道路橋への適用に関する研究、岩佐義朗：開水路定流の不定流限界について、森忠次：ハリおよびアーチの応力状態に及ぼす支持条件の影響について、その他。

2. 第 9 回会誌抄録委員会（昭.30.3.7）出席者：左合委員長、渡辺（隆）、平嶋両委員、千秋幹事、徳

平編集幹事，岡本編集部員。1) 40 巻 4 号登載用として 8 編を予定 (割当 8 ページ)，2) 繰越 14 編，新規 6 編について協議した。

3. 学会誌編集小委員会 (昭.30.3.7) 出席者：後藤副委員長，坂本，斎藤，鈴木各担当委員，岡本編集部員。協議事項：40 巻 4 号 (増大号) 会誌編集について最終的打合せを行った (110 ページ)。

4. 第 5 回応用力学連合講演会事務打合せ (昭.30.3.2) 出席者：各学会事務担当者，中川書記長，椿齋，堀内両書記，議事：講演会実施について準備事務細部打合せ。

5. 鋼鉄道橋設計示方書解説小委員会 (昭.30.3.2~4) 出席者：田中委員長，青木 (鋼道路橋) 委員長，友永委員，西村，菊池，田島の各幹事，川崎連絡員，中川書記長，議事：解説原案につき逐条審議。

6. 第 25 回コンクリート鉄道構造物委員会 (昭.30.3.4) 出席者：吉田委員長，高橋，平井，友永の各委員，山内，三浦，白石，横山，深谷，田村，川口の各幹事，議事：第 15 条及び第 18 条審議，第 26 回同委員会 (昭.30.3.12) 出席者：吉田委員長，沼田，最上，平井，岡本，丸安，星埜，高坂，友永の各委員，白石，横山，深谷，田村，川口の各幹事，議事：1) 原案 5~28 条逐条審議，2) 14, 15 条の解説審議。

7. 第 35 回プレストレスト コンクリート委員会 (昭.30.3.4) 出席者：吉田委員長，国分，田原，山田，川崎，片平 (代宮崎)，伊東，猪股，海上 (代白木)，藪島，渡辺 (代木村)，山崎，友永，三浦，樋口，菅原，深谷，田村，川口の各委員，議事：第 46, 47, 50~52 条逐条審議。第 36 回同委員会 (昭.30.3.18) 出席者：吉田委員長，沼田，国分，田原 (代国広)，山田，川崎，片平 (代宮崎)，猪股，海上 (代白木)，藪島，渡辺 (代木村)，山崎，三浦，菅原，深谷，田村，川口の各委員，議事：50 条，53~55 条逐条審議。

8. 第 1 回溶接鋼鉄道橋委員会 (昭.30.3.11) 出席者：青木会長，田中委員長，福田，平井，奥村，田原，田中 (五)，友永，高坂，多田，中根の各委員，西村，菊池，大宮，田島の各幹事，宮崎連絡員，議事：1) 青木会長及び田中委員長の挨拶に次いで全体委員会を月 1 回くらいとし，小委員会で原案を検討することとして進行をはかること，2) 資料 3 (ドイツの溶接プレートガードー鉄道橋暫定示方書) について検討した。

9. 第 4 回大正以降土木史委員会 (昭.30.3.11) 出席者：鈴木，金子正副委員長，木村 (代谷)，坂本

(代久保島)，田村 (代川崎)，高野，五十嵐，大森 (代田中)，寺島，武井，片平，高坂，市浦，本間の各委員，玉田 (代西)，中尾両幹事，議事：1) 各部門進捗状況報告，2) 軌道及び地下鉄道を別編とすること，3) 土木教育主査委員に広瀬孝太郎氏を委嘱すること，4) 分科委員に江里口正夫 (鉄道)，小林元椽，長尾満 (建設機械)，八巻重郎，真田重雄，原賀敏光，奥津五郎 (上下水道) の諸氏を委嘱する，5) 原稿締切を 7 月まで延期するが，できるだけ原稿をまとめるよう各委員努力すること。

10. 第 3 回土木賞委員会 (昭.30.3.14) 出席者：吉田委員長，伊藤，岡本，佐藤，富樫，広瀬，福田，町田，三丁目，荒井，庄司，田中の各委員，青木会長，菊池副会長，最上理事。議事：1) 投票数 23 通を開票の結果次のとおり決定した。

学会賞：土の力学における塑性の基本理論と三軸試験への適用 (論文集第 21 号) 正員 工博 星埜 和  
奨励賞：橋脚地盤の基礎係数値分布に関する実験的研究 (第 39 巻 6 号) 正員 後藤 尚男  
土の水に対する安定性について  
(第 39 巻 10 号) 正員 森 麟

11. 海難防止港湾施設委員会 (昭.30.3.15) 出席者：鈴木委員長，鮫島，岡部，嶋野，黒田，菊池の各委員，佐藤幹事，中川書記長，椿齋主任，議事：JSC 海難防止委員会の経過報告 (鈴木，嶋野，菊池の各委員) ののち，港湾施設に関する答申を再検討した。

12. 第 4 回法面築堤崩壊防止研究委員会 (昭.30.3.25) 出席者：沼田委員長，最上，星埜，福岡，高坂の各委員，八十島，渡辺，三木の各幹事，国鉄土木課，建設部，鉄研の各関係者，中川書記長，堀内書記，議事：1) 三つのテーマ (中川，白新線，大嵐) に対する前委員会以後の結果について検討，2) 成果取りまとめ総合報告，3) 年度末報告書作製について打合せ，4) 学会で 3 月 30 日までに報告書を取まとめ国鉄に提出のこと。

13. 第 12 回製図規格委員会 (昭.30.3.30) 出席者：福田委員長，佐島，深谷，丸安，水越 (代高井)，八十島の各委員，田村，橋本両幹事，中川書記長，議事：1) 総則，鋼構造，鉄筋コンクリートは“土木製図規準 I”としてすでに昭和 28 年 4 月に発刊し好評を博しているが，引続き各部門の規準を制定するかどうかについて慎重協議の結果，継続審議の上，今後逐次河川，発電水力，測量，鉄道，木構造をまとめて II として制定の上出版すること，2) 委員のうち地方に転任した人の後任は本人に交渉の上決定のこと (樟島

正二, 粕谷逸男両氏の後任), 3) 担当委員及び原案取  
まとめの時期,

- 発電水力: 水越, 高畑両委員でほとんど原案完成,  
4 月末または 5 月初旬,
- 測 量: 丸安, 佐島, 真塩の各委員 7 月
- 鉄 道: 八十島ほか 1 名 6 月
- 木 構 造: 村上委員 8 月
- 河 川: 委員を決定の上検討のこと。

◎その他

1. 第 7 回日本工学会大会 準備担当学会長懇談会  
(昭.30.3.11) 出席者: 加茂会長ほか担当学協会代表  
者, 土木学会から青木会長, 中川書記長出席, 議事:  
昭和 31 年 4 月を期して第 7 回日本工学会大会を開催  
の趣旨について加茂会長から挨拶があり協力方要請,  
2) 時期は大体明年 4 月 14, 15 の両日が適当, 3) 具  
体的準備に入るため, 来月 4 月 28 日に各学協会の担  
当者打合会を開催のこと。

2. 夏季講習会下打合会 (昭.30.3.29) 出席者:  
星笠, 片平両理事, 川崎, 国分, 川口, 田原, 友永,  
橋本の各氏, 中川書記長, 椿著, 堀内各主任, 議事:  
1) 日時は 8 月 17~20 日の 4 日間, 2) 会場は例年の  
とおり東大法学部 25 番教室, 3) 講習会名を橋梁新  
示方書講習会とする。4) 講演題目と講師案は次のと  
おりとする。

- a) 特別講演(田中 豊), b) 鋼鉄道橋設計示方書  
改正の要点(友永和夫), c) 鉄道橋の衝撃(橋本香  
一), d) 特別講演(青木楠男), e) 鋼道路橋設計示  
方書改正の要点(田原保二), f) 道路橋の荷重(川  
崎偉志夫), g) 橋梁製作の問題点(田中五郎), h)  
活接橋梁について(奥村敏恵), i) 特別講演(吉田  
徳次郎), j) プレストレストコンクリート設計施工  
指針(川口輝夫), k) 同上設計例(猪股俊司)
- 5) 講習時間割案を次のとおりとする。

		8.30	9.00	10.00	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00	16.00	17.00
8月17日(水)	田中 豊 会長挨拶	友永	昼食	橋本	奥村						
8月18日(木)	青木楠男	田原	昼食	川崎	田中(五)						
8月19日(金)	木吉	川口	昼食	猪股	映画及び スライド						
8月20日(土)	見学										

終講式

映画及びスライドと見学先は後日決定のこと。

6) 教材としてパンフレットを作製のこと, 7) 会費そ  
の他は理事会で決定のこと。

支 部 だ よ り

1. 北海道支部 研究発表会 (昭.30.3.16) 北大工  
学部で開催, 盛会裡に終了した。講演題目及び講演者  
は次のとおり。

(第一会場)

鶴川橋(ローゼ橋)の設計及び架設について(堀米昇), 板別橋の架設  
について(平川延一), 厚岸大橋主径間部設計計画私案(5径間ゲルバ  
ー橋 SS41)(今俊三, 大島久), 同(3径間ゲルバー橋 SsS52)(野路  
哲司, 山形仁), ポニートラス上弦材の撓曲について(沼瀬幸雄), 中  
間拘束を有する柱状体の固有振動数算定について(前田幸雄), 曲げ部  
材としての深い梁の極限径間長について(能町純雄), 塑性理論による  
鉄筋コンクリート断面設計(横道英雄), 弾性梁に支持される連続版  
の特性について(岡元北海), 壁厚一定の円筒形水槽構造物の温度応力  
解析(酒井忠明, 浜吉福治), 浮防材材について(加藤市郎), 放射形同  
位元素による濃砂追跡法(佐藤昭二), 苫小牧海岸の波浪観測について  
(白石直文), トランシットによる波浪の記録観測法(宇田居吾一),  
港口における潮流と波について(真嶋恭雄), 最近北海道における衛生  
土木学上の進展について(林猛雄), 札幌市下水道の温度調査について  
(石関秀穂), 降雨と河川計出水について(太田昭郎), 河川水伝 2 種  
について(村木義男), 射流現象に関する二, 三の考察(尾崎寛), 広  
頂堰の流量係数について(鈴木洋二, 小川芳昭)

(第二会場)

第一石狩川橋梁水中井筒の掘付について(山田清), フライアツシエ  
化学的性質について(伊藤洋二), 奈井江 13 号橋管電熱養生施工(高  
木謙治), 軟弱な構造物基礎地盤の土質工学的性状に関する 2, 3 の例  
(大平至徳), 簡易貫入試験機による地盤調査(真井耕象, 北野繁), 特  
殊グラウトによる橋脚根固め工事(板倉忠三, 水沢和久), 鉄筋のガス  
圧接法(垣見俊一), 層雲峡発電所第 7 号隧道施工法(中村謙平), 留  
筋本線恵比寿隧道延伸工事について(野中正樹), 函館本線朝里張根  
危険岩石の対策(塩谷勝男, 能勢次), 桂沢ダム模型実験に関する報  
告(円保憲仁, 小佐林宏), 道路の凍上に関する二, 三の資料(古山剛  
三), コンクリート舗装の施工管理について(北村幸治), ソイルコン  
クリート基礎工について(高田和夫), 塩化カルシウムによる土砂道の  
安定処理について(板倉忠三, 中島昭雄), ゴムを用いた歴青舗装につ  
いて(板倉忠三, 菅原照雄), パルプ廃液の道路への利用について(板  
倉忠三, 中田良孝), 歴青舗装の摩耗対策に関する基礎研究(巻下二四  
郎, 北間和夫), 歴青混合物の力学的性質に関する基礎研究(板倉忠  
三, 加来照俊, 上山高明)

2. 東北支部 技術研究会 (昭.30.2.25 復興建設  
技術協会東北支部共催) 参加人員約 160 名, 研究発表  
者次のとおり

土の圧縮強さに関する研究(大原舜世), プレストレストコンクリート  
スラブ橋の横締について(尾坂芳夫), ダムを溢流する流水の解析的研  
究(井田至春), 迫川南谷地遊水池計画について(岩井宏造), 鳴子隧  
道注入コンクリートによる覆工改築について(柴内与一), 塩釜港にお  
けるサンドドレーン工法について(竹内益雄, 立石哲郎), 釧路堰堤と玉  
川毒水対策について(坂野行雄), ウェル沈下の特殊工法について(藤  
森経也), 熊ヶ根橋のエレクションについて(木須伍平), 対角線方向  
に加重された正方形板の引張応力について(富田高久), 連累調整池群  
における流量到達について(吉田榮延), 第一日向隧道「モルタル」  
注入について(阿部精一)

写真一 東北支部技術研究会会場



3. 中部支部 学生見学会(昭.29.12.6 金沢地区)七尾港, P SコンクリートKK七尾工場, 磐城セメントKK七尾工場を見学した。参加者 25 名。(昭.29.12.11 名古屋地区)名古屋市鍋屋上野浄水場, 露橋下水処理場, 天白汚泥処理場を見学した。参加者 65 名。(昭.29.12.19 岐阜地区)佐久間ダムを見学した。参加者 25 名。第 8 回幹事会及び第 2 回役員会(昭.29.12.21) 出席者:大林支部長始め 35 名, 議事:1) 1 月行事について, 2) 2 月行事(見学会)について, 3) 本年度行事中間報告, 第 9 回幹事会(昭.30.1.11) 出席者:竹重幹事長外 21 名, 議事:1) 1 月行事の講演会予定どおり開催のこと, 2) 2 月行事見学会は工事進捗状況を考慮して次回細目決定, 3) 3 月行事(講習会)防災工学に関する講習会を催すことに決定, 講師を選択した。第 5 回講演会(昭.30.1.22) 聴講者約 85 名で非常に盛大であった。講師及び演題は次のとおり, “アメリカにおける最近のトンネルの設計施工及びその他土木工事について”(国鉄 坂本貞雄)。第 10 回幹事会(昭.30.2.5) 出席者:竹重幹事長ほか 23 名, 議事:1) 2 月行事について, 2) 3 月行事について, 3) 昭和 30 年度支部長選任について。第 11 回幹事会(昭.30.3.1) 出席者:竹重幹事長ほか 22 名, 議事:1) 3 月行事について, 2) 昭和 30 年度支部行事予定について, 3) 年次講演会の講演割当について, 学生見学会(昭.30.3.8. 長野地区)佐久間ダム, 参加者 28 名, 第 3 回見学会(昭.30.3.19. 名古屋市高速鉄道栄町駅建設工事現場, アサノコンクリートKK, 名古屋港サイロ建設工事現場)参加者:120 名, 経過:午後 1 時半栄町現場に集合, 説明ののち現場見学, 2 時半貸切バス 2 台に分乗, 中川運河河畔のアサノコンクリートの生コンクリート工場を見て, 4 時名古屋港に到着, 西埠頭に建設中の食糧庁サイロは滑動型枠工法によるもので, 大阪で施工した本工法による記録映画を見て午後 6 時頃名古屋駅前に到着解散, 防災工学講習会(昭.30.3.25~26.) 参加者:153 名, 講演題目及

び講師は次のとおり,

防災工学総論(矢野勝正), 台風(古武素二), 洪水子知(奥田秋夫), 砂防(木村弘太郎), 耐震構造(岡本舜三), 海岸防災(石原藤次郎), 海岸堤防工事(中島武), 講習後, 26 日午後 1 時半会場から貸切バス 2 台に分乗して, 知多郡半田武豊海岸堤防建設工事現場に行き一部完成した海岸堤防を視察して午後 5 時半名古屋駅前で解散した。第 12 回幹事会(昭.30.3.25.) 出席者:竹重幹事長ほか 23 名, 議事:役員会提出議案について, 第 3 回役員会(昭.30.3.25.) 出席者:大林支部長ほか 41 名, 議事:1) 昭和 29 年度事業報告及び決算報告原案どおり承認, 昭和 30 年度支部長を名古屋市水道局長杉戸清氏を推薦することに万場一致決定。

4. 関西支部 土曜会(昭.30.2.26) 出席者:近藤支部長, 松島, 高西, 林, 福留, 和田, 三輪, 原口, 橋本, 泉谷の各元支部長, 天野, 松平両幹事, 議事:1) 諸報告, 2) 昭 30 年度役員改選その他について, 役員会(昭.30.3.9) 出席者:近藤支部長, 林, 福留, 鈴木元支部長, 川口, 樋渡, 小林, 小松, 雨宮, 松尾, 天野の各商議員, 成岡幹事, 中川事務長, 議事:1) 各種報告(道路舗装講習会中間報告その他), 2) 第 28 回総会開催方法について, (5 月 11 日大阪において開催), 3) 次期役員選挙方法について, 昭和 30 年度予算書及び事業計画について, 福井地方学術講演会(昭.30.3.3) 参加者 200 余名, 講演者及び演題:建設事業概論(矢野勝正), コンクリート舗装(近藤泰夫), 福井市の下水道(寺岡初), 道路舗装講習会(昭.30.3.24 大阪工業大学において) 聴講者:第 1 日 381 名, 第 2 日 337 名, 講師は武居高四郎ほか 5 名, 聴講者には修了証書を授与した。

5. 西部支部 役員委嘱報告:(支部長)伊藤剛(商議員)熊川信之, 加藤正晴, 大島末彦, 飯田一実, 永瀬肇, 長谷川正勝, 佐分利三雄, 是枝実, 鷲崎文雄, 下島正夫, 渡辺寛治, 重松愿, 川上謙太郎, 江口辰五郎, 森田定市, 田中敬親, 西松康友, 宮子時雄, 山野善次, 塩塚重蔵, 金谷明, 柿野二三郎, 上ノ土実,(地区常議員)山崎徳也, 平田茂憲, 根来幸次郎, 和里田新平, 傍島湊, 穂積健茂,(幹事長)和里田新平,(幹事)坂梨宏, 下津秀美, 上田年比古, 下川浩實, 石川高明, 和田善吉, 大串繁雄, 天方正彦, 久富一之,

第 1 回幹事会(昭.30.2.21) 出席者:和里田幹事長, 坂梨, 下川, 天方, 下津, 上田, 和田, 大津の各幹事, ほかに斎藤, 白石両君, 議題:1) 通常総会及び第 11 回年次学術講演会準備委員会について, 2)

見学会スケジュールについて、3) 事業資金募集について、第1回商議員会(昭.30.3.1) 出席者: 能川(代)、飯田、永瀬、長谷川、佐分利、是枝、鷲崎、下島、江口、田中、西松、山野、塩塚、柿野、上ノ土の各商議員、伊藤支部長、和里田幹事長、坂梨、下川の各幹事、他に特別招待者6名、議題: 1) 通常総会並びに第11回年次学術講演会、見学会について、2) 30年度事業計画について、第2回幹事会(昭.30.3.1) 出席者:

和里田幹事長、坂梨、下川、天方(代)、上田、和田、石川(代)の各幹事はかゝ藤、議事: 1) 通常総会並びに第11回年次学術講演会、見学会について、a) 本部との交渉経過報告、b) 商議員会決定事項、c) 学会誌3月号(お知らせ)の内容、d) 寄付依頼先と金額、e) 拡大幹事会、2) 昭和30年度事業計画及び予算について。

優良取次書籍案内

書名	著者	発行所	定価	送料
日本発電用高堰堤要覧	通産省公益事業局 水力課編	発電水力協会	1 500	100
ダム建設の機械化		日本建設機械化協会	1 500	100
日本建設機械要覧(1953)		"	2 500	100
港工学	鈴木雅次	風間書房	1 800	90
港湾施設の設計計算例	米川実男	"	1 200	70
セメント注入	渡辺貫(外2名)	松尾書店	400	50
コンクリートマニュアル	近藤泰夫訳	国民科学社	500	50
土質力学	最上武雄	岩波書店	250	30
隧道の施工	佐藤周一郎	白亜書房	750	50
土木工事歩掛及び施工標準	良本正勝	理工図書 K K	450	50
土木耐震学	物部長穂	"	400	50
地耐力調査法	池田俊夫(他1名)	鉄道現業社	140	20
鋼橋の理論と計算	吉町太郎一	石崎書店	1 800	100

昭和30年3月分入退会報告(昭.30.3.1~3.31)

1. 入会 99名(正25, 准38, 学生36)
2. 退会 93名(特3級2, 正43, 准45, 学生3)
3. 転格 362名(特1級より2級へ1, 准より正へ11, 学生より准へ349, 進より学生へ1)

会員現在数(昭.30.3.31現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
20	16		32	77	149	5 371	6 520	1 390	13 575	6

昭和30年4月10日印刷	土木学会誌 第40巻 第4号	定価 100円
昭和30年4月15日発行		
編集兼発行者	東京都千代田区大手町2丁目4番地	中川一
印刷者	東京都港区赤坂溜池5番地	大沼正
印刷所	東京都港区赤坂溜池5番地	株式会社 技報堂
東京中央郵便局区内	千代田区大手町2丁目4番地	電話和田倉(20) 3945番
発行所	法人 土木学会	振替東京16828番